

第101回全国高等学校野球選手権長野大会

2回戦 夏まらずは1勝

下伊那農	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長野五輪										
北部・坂城連合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諏訪実	0	0	1	3	0	0	0	0	X	4
須坂創成	2	0	0	0	0	0	0	1		3
小海	0	0	0	3	0	1	0	1	X	5

本三石 (小)

きょうの試合

(しんきん諏訪湖スタジアム)

ウェルネスー長野東 (10 時)

が投げられた」とうなずいた。

益元志学館 右腕

梓川先発 成長示す完封

川5-0須坂東 (諏訪湖)

ゲームセットの瞬間、最後までマウンドを守った梓川の石橋は拳を握った。4安打完封でチーム

を7年ぶりの3回戦に導き、「成長を結果で示せた」と語った。

高低を意識し、下手から浮き上がる球筋が効果的だった。相手打者はことごとく心を外され、

「今年の一番は去年よりずっと重い」。2年生だった昨夏も背番号1を背負ったが、序盤に逆転を許して初戦で敗れた。

須坂創成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小海	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

振球	1	3	2	0	9	3	4	8	0
小海	0	0	0	0	0	0	0	0	0

振球	1	1	1	1	7	3	4	9	5
小海	0	0	0	0	0	0	0	0	0

東信予選は満塁の場面で三振り、チームは敗れた。三石は「最後の夏に、少しは頼りになる主将になれたかな」。昨夏敗退した3回戦に向け、「気持ち

備位置を考えながらしかりコースを突けた」

長野南・神戸(八回にかまる)「これまでで、2番に良い打球が出ていたが、八回は接戦のものにしたいという気持ちが空回りした」

小海5-3須坂創成 (長野五輪)

小海の主将三石が逆転の3点ランニング本塁打を放ち、試合をひっくり

返した。2点を追う四回1死二、三塁、直球をうまく捉えた打球が中堅手の後方に落ちると、一気に本塁を陥れた。億千金の一打に「練習の成果が

出た」と相好を崩した。相手投手の速球に対策を練って臨んだ。バットを指す本分短く持ち、コンバクトに振ることを心掛けた」という。今春の

須坂創成・高野主将「打たれた本塁打は自分のミスで、仲間がつかいでくれた九回(の凡退)も力不足。もう少しみんなと野球をしたかった」